

「野洲市民病院」を市民と考える懇談会 懇談要旨

- ▶ 平成 29 年 6 月 17 日 午後 2 時～4 時 15 分
- ▶ 野洲市役所第一委員会室
- ▶ 参加者 市民約 80 人、市長、職員 10 人、マスコミ 4 社

次 第

1. 市長あいさつ
2. 懇談会
 - (1) 市民病院事業全体の経緯と現状について（市説明）
 - (2) 野洲市民病院 基本設計最終案について（市説明）
 - ① 配置、断面、平面、外観、内観説明
 - ② VR（バーチャルリアリティ）上映
3. 意見交換

《主な意見等（要旨）》

1. 男性：計画の内容について理解できた。計画通り進めて欲しい。遅れれば、コストが増えてしまう。
2. 男性：条例は議会で可決され、そのあと予算が否決されているという状況は不思議に思う。自分は、住民投票をやらざるを得ないと思っている。
→市長：条例は恒久的な制度であるが予算は単年度主義である。現野洲病院のドクター等スタッフは新病院をめどにモチベーションを保たれている。こういう点からも急がなければならない。
3. 男性：①なぜ駅前に病院なのか、②駅前には元気な人が多く通るので、患者やその家族が自身のおかれた状況と照らし悲しい気持ちになってしまう。だから、駅前に病院は作るべきでない。
→市長：市の病院整備計画は「野洲駅中心市街地整備計画」、「南口周辺基本構想」、「立地適正化計画」、「設置条例」と市が積み上げた末、市議会や国に認められたものである。
→市長：では、駅前には何がいいとお考えか？
→男性：実は私はまったくわからない。代案がないため具体的には示せない。
→男性：では、病院の代替地と言うのであれば、市三宅の新市街地はどうか？
→市長：あの場所は、大規模小売店を誘致するという事で、農水省も国交省も転用を認めてくれたという経緯がある。病院はもっていけない。
4. 男性：医師確保は本当に大変である。少しでも便利なところを望まれる。また、滋賀医大が協力姿勢であるうちでないとダメになる。議員はこのことを理解しているのか。市長には反対議員を説得して欲しい。
5. 男性：市の計画はベストとは思っていないが、ベターだとは思っている。代案

がないなら、ベターな市の計画を認め、ベストを目指して細部の合意を積み上げ進めることが大切であると考え。それが発展的な住民自治の進め方だと思う。

6. 男性：病院の経営は、経済性が大切だと考える。守山市民病院、大津市民病院の状況をみると最後は市税を投入しなければならないようでは困る。
- 市長：守山市民病院、大津市民病院ともに別の要因で改革を進められている。この二つの病院と野洲市の計画している病院とは違うものである。
- 男性：私の言いたいことは、フルスペックでなんでも持っていいのか、ということ。野洲市の近隣には済生会、成人病センターがある。税金を投入してまで必要かと思っている。
- 市長：済生会、成人病センターとは医療機能が違う。野洲市は、二次救急であり、機能分化すると明言している。フルスペックではない。必要ないといわれるのなら、どこが野洲の地域医療の後方支援をしてくれるのか。
7. 男性：広報の内容について、一般市民にもわかりやすいように充実させて欲しい。また、私事だが、昨年、成人病センターに母が雇った。車での迎えができないときは病院から自宅まで電車とバスで帰ることになり、高齢者には無理で、やはり市内に病院は必要だと感じた。高齢者が車の運転をやめている現状をみると、今、コミバスが充実しているので駅前ならよいと思うが、郊外なら乗り継ぎになり特に高齢者には負担が大きいと思う。
8. 男性：駅前に病院を建てて、一番困るのは駅前の住民である。駅前の大半の人は、この計画に憂慮している。それは、駅前に病院が建つとうっとおしいからである。それと、商業的に発展しなくなるということ。このことから駅前置民のコンセンサスをとるように市長にはお願いする。駅前置民が納得できるように足を運んでもらいたい。
- 市長：昨年4月に駅前自治会の皆様との話し合いの場を持って、一定の理解は得ている。その後も賛否はあると聞いているが、それはどの地域でも同じことである。公共の政策には議会の合意が基本であると考えている。
9. 男性：駅前はまちの玄関口との理由で反対の声があるが、それで病院整備が止まればどうなるか。平成20年ごろアサヒビールの土地を市が買うか、民間に渡すかという議論が起きた。10数億円の土地を民間が採算を得るには分譲の高層マンションしかないだろうと言われている。そのことを考えた上で賛否を表明して欲しい。また、駅前に病院ができるとうっとおしいとの意見があったが、病院だけでなく、保育園、障がい者施設等の弱者こそ、まちの中心で身内、家族、友達が普段から交流できるようにしないとイケないと思う。「人として生きていきやすいまち」をつくっていくべきと考える。市長には、できるだけ角を立てないようにして、話を聞いて進めて欲しい。
10. 男性：駅前の病院では、夢も希望も失くしてしまう。ほかに土地はいくらでもあるし、自然の中で心安らかに静養してもらえばよい。駅前なら医師の確

保に優位ということには疑問がある。また、反対されている議員も市民の代表である。その人たちが反対なのだから市長はもう少し聞いてあげべき。市長選挙で勝ったからという短絡的なことでは困る。

11. 男性：私は、議会が可否同数なら、余程の理由がない限り、議長は市の提案を認めるのが普通だと思う。それと、今日、この場に反対の議員がおられないことは残念に思う。反対の理由は市長選挙を根に持った感情論ではないかと思っている。計画を進めていくためには市長には反対されている議員を説得して欲しい。
12. 男性：原因は政策以前の感情論で凝り固まっているからだと思う。住民投票も拘束力のない制度のため意味がないと思う。こうなれば、10月の市議選では地域の代表ということではなく、政策で選ぶことが大切だと思う。
13. 男性：私の考えは、救急医療メインのコンパクトな病院にして欲しい。また、リスクの問題は疑問を感じている。調べたところ、今800ある公立病院のうち黒字は5%（※医業収入のみで一般会計負担金等含まず。）である。野洲市は、どの程度までなら赤字になっても持ちこたえられるのか。
→市長：収支の中で建物のイニシャルの償還等もすでに見込んでいます。医業に係る収支も医業収入でその費用が賄える設計である。それが概ね8年目に収支が均衡すると見込んでいます。それと、「コンパクトな病院で救急」というのはあり得ない。救急を充実させるなら、一定以上の規模とスタッフが必要になるため。
→男性：では、例えば、訪問医療と救急を行う地域拠点的なものはどうか。
→市長：訪問医療つまり往診は地域の開業医の役割で、その診療所をバックアップするのが中核的医療機関となる野洲市民病院である。
14. 男性：今、守山野洲医師会では、「強化型在宅支援診療所」というプロジェクトに取り組んでいて、4～5の診療所が組んで24時間体制を目指している。最終的には10～20の診療所での取り組みになるだろう。このプロジェクトの前提には、野洲市民病院の後方支援がある。もし、野洲市民病院が実現されなかったなら守山市民病院の動向から考えて、守山・野洲両地域医療の提供体制が厳しくなる。「うっとおしい」と言わずに、病気になった人もまちで支えていく、人権のまちとして、そういう病院づくりを目指して欲しい。
15. 女性：前回の市民懇談会（H29.2開催）で意見を出していた病棟の風呂はどうなったか。それと、受付は総合と各科の両方で行うことになるのか。あと、目的の場所へ迷わず行けるように案内表示があればいいと思う。
→市担当：風呂は病棟内に整備する計画である。受付は再来の場合は各科で行うことになる。また、案内については、よりわかりやすいサインになるように努めたい。